

鳶の地形の起こり

赤倉岳の崩落

この谷全体の構造をつくりかえた大規模な地質学的事象が起こった際、赤倉岳から崩落した岩屑は鳶地域の景観を形成しました。赤倉岳は、南八甲田山系を構成する七峰のうちの1つで、80万～30万年前の間の火山活動によってつくりだされました。山体上部の岩石が非常に不安定だったことがこの崩落の要因となりました。

驚天動地

何がこの大変動を引き起こしたのかは謎です。地震、あるいは地下に溜まった蒸気の爆発によって誘発されたのかもしれませんが。いずれにせよ、1万5千年前から10万年前までの間のある時点で赤倉岳の東側斜面は崩落し、岩石や砂利、火山灰がふもとに流れ落ちました。このような岩屑なだれの勢いは、時速数百キロにも達することがあります。粉塵が収まる頃には、1億～3億立方メートル分の堆積物が1100万平方メートルを超える範囲に広がっていました。

変動の余波

このなだれの堆積物は谷の姿を一瞬にして変化させ、岩が突き出ている地形を残しました。これらの小丘は水路を塞ぎ、雨や雪解け水、地下水が貯まる浅い窪みをつくりだしました。やがて、これらの窪みは野鳥の森散策路沿いのあちこちにある鳶の六沼を形成しました。しかし、しばらくの間、この地域は荒涼としており、あまり生物がいませんでした。地表は砂利や火山灰、マトリックス（さまざまな鉱物などの物質を含む岩石）が無秩序に混ざり合った状態でした。

目に見える名残

何千年も前に起こったこの出来事の痕跡は、今でも鳶の森の全域に残っています。80万～30万年前の間の赤倉岳の火山活動により、この岩屑なだれは、もとはゆっくり流れる溶岩と高速で流れる火砕流だった岩石から成っていました。これらの岩石はなだれに巻き込まれ、ここに運ばれてきました。堆積物の変形は現在も続いており、研究者は斜面沿いの一部の地域で年に数センチの移動を観測しています。